

NEWS RRM

[ニュース] Regional Resource Management



〈キャンパス前の風景〉

キャンパス眼前に広がる「コウノトリ育む水田」には水が満たされ、盆地を取り囲む山々が美しく映し出されている。生物の活動は日に日にその勢いが感じ取れ、夜になればカエルの大合唱がこだまする。いきものざわめく季節がやってきた。コウノトリの雛は親鳥と遜色ない大きさに成長し、個体識別のために装着された足輪が巣立ちへのカウントダウンを告げている。今年鳥取市にも営巣地が拡大し、「全国へそして世界へ」というスローガンを掲げた野生復帰事業も着実にその成果をあげている。

今年入学した1回生は緊張した面持ちで4月のオリエンテーションに出席し、事務的な手続きも早々に、教員や先輩らと共に各々のフィールドに足を運んでいる。やれ水温ロガーの設置だ、網の使い方はこうだななどレクチャーを受け、本番に向けての研究準備が着々と進んでいる。2回生はというと、研究の進捗を気にしつつ慣れないスーツを着て就活に勤しんでいる者、博士課程進学を志し、初めて論文を執筆する者など様々であるが、これまでのやりとりで感じられることは、この1年で研究者として社会人として成長したことである。内々定の嬉しい知らせを届けてくれた学生は、「これからは研究に専念します」と静かに宣言し、潜水観察をするためのドライスーツのほつれを手際よく修理し、溢れ出るアイデアを取捨選択しながら自主的に

新生RRM始動

研究科長 佐川 志朗

調査・研究に邁進している。本当に頼もしくなったものだ。

当研究科は今年で6年目を迎える。大学院設置に多大な尽力をされた3名の先生方が退官され、新たな教員を迎えてこの4月から心新たにスタートをきっている。エコ領域ではアホウドリの野生復帰の立役者である出口先生、ジオ領域では地球科学をベースに理科教育学にも精通されている川村先生、黒曜石を題材とした気鋭の研究者である佐野先生のお三方が赴任された。先日、地元や関係諸氏に声をかけて新任教員のお披露目会を行ったが、講義室がいっぱいになるくらいに多くの方が参加され、3名への関心の高さと、大学院に対する期待が感じられ、身が引き締まる思いがした。今まで培ってきた伝統を活かしつつ我々の感性も加味させて、コウノトリの野生復帰や世界ジオパークを核にした国内外における連携を強めていきたい。当研究科は但馬で唯一の高等教育機関として、地域資源をマネジメントするという大役を担っているということに肝に銘じ、これからのその役割を果たしていかなければならない。

大学院生の研究報告会やサイエンスカフェも、大学院が地域に開けた「集える知の拠点」となるようさらなる見直しを行っていきます。皆様方におかれましては、新生RRMへの御指導、御鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げますと共に、お気軽にお立ち寄りいただければ幸いです。

Information

〔夏のオープンキャンパス2019〕
〔夏休みオープンキャンパス2019〕 Information 01

当研究科の一般公開「夏のオープンキャンパス」を、令和元年7月7日(日)の午後1時45分から開催します。また、地元へ帰省中の学生の皆さんや高校生など、但馬にある大学院を体験してみたい方に向けて、「夏休みオープンキャンパス」を令和元年8月4日(日)に開催します。オープンキャンパスでは研究科や入学試験の概要を紹介し、展示による大学院生の研究活動紹介を行います。当研究科に興味のある方、受験を検討されている方、また広く但馬周辺地域にお住まいの方の参加をお待ちしています。

- 日 時： ● 夏のオープンキャンパス：
令和元年7月7日(日) 13:45～16:15
● 夏休みオープンキャンパス：
令和元年8月4日(日) 13:45～16:15

場 所： ● 兵庫県立大学豊岡ジョ・コウノトリキャンパス
(豊岡市祥雲寺128番地)

- 内 容： (1) 研究科、カリキュラム、入学試験についての説明
(2) 施設やフィールドの見学、大学院生の研究紹介
(3) 個別相談、在学生との交流

※オープンキャンパスを含む前6日間、個別相談を毎日受け入れます。随時受付しておりますので、希望日時と話を聞きたい教員をお知らせください。

〔博士前期課程 A日程入試〕
〔博士後期課程 第1回入試〕 Information 02

博士前期課程A日程入試(全日程を合わせて定員12名)および博士後期課程第1回入試(全日程を合わせて定員2名)を、令和元年8月24日(土)に実施いたします。試験は専門試験(小論文)と口述試験、会場は豊岡ジョ・コウノトリキャンパス(豊岡会場)と、神戸商科キャンパス(神戸会場)から選べます。

入試日： 令和元年8月24日(土)
願書受付： 令和元年7月31日(水)～8月13日(火)

※事前に受験資格審査が必要な場合は、令和元年7月14日(日)～7月28日(日)に審査書類をご提出ください。

〔お問い合わせ〕 各催しの詳細はウェブサイトをご覧ください。あるいはメール、電話にてお気軽にお問い合わせください。

第17回 サイエンスカフェRRM Information 03

私たちは誰しも、私たちをとりまくさまざまな物事に、さまざまな想いを照射して生きています。風景もまた例外ではありません。懐かしさを覚える風景、あるいは見たくない風景、時に正負さまざまであったとしても、私たちは何らかの想いをもって風景に相対しているのです。であるからこそ、私たちは風景が急激に変化を遂げてしまうことに、とまどいや寂しさを感じるのかもしれませんが。

地域の社会において育まれ、そこに住まう人々のさまざまな想いが照射されてきた風景=景観を、私たちはどのように受け継いでいけばいいのでしょうか。今回は文化的景観をめぐる事例を手掛かりに、みなさまと考えていきたいと思います。

日 時： 令和元年7月28日(日) 14:00～16:30
場 所： 豊岡稽古堂交流室3-1
(豊岡市役所敷地内、大開通り正面:豊岡市中央町2-4)

定 員： 40名(先着順)
参加費： 無料(飲み物は各自でご持参ください。稽古堂にも自動販売機はあります)

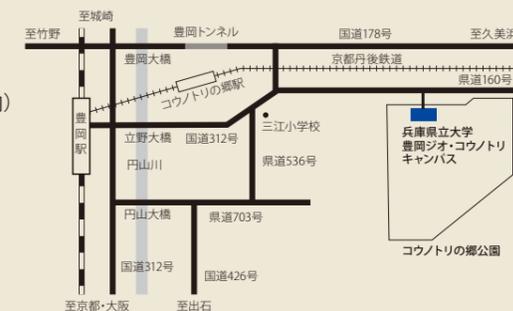
1. 話題提供 (14:00～15:15)
京都造形芸術大学歴史遺産学科教授 杉本 宏氏
「地域の個性と文化的景観」
2. ディスカッション (15:15～16:30)
ファシリテーター: 小原 嘉文・今津 瞬
(兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科博士前期課程)

●サイエンスカフェRRM 2019年度スケジュール

回	期日	話題提供者
16	5月12日(日) 14:00～16:30	岡田 誠氏(茨城大学理工学研究科) 「地磁気の運転とチバニアン」
17	7月28日(日) 14:00～16:30	杉本 宏氏(京都造形芸術大学歴史遺産学科) 「地域の個性と文化的景観」
18	10月27日(日) 14:00～16:30	長谷川 雅美氏(東邦大学理学部生物学科) 「伊豆諸島におけるヘビとトカゲの共進化、 長期野外研究で分かっていたこと(仮題)」
19	12月8日(日) 14:00～16:30	石田 啓祐氏(徳島大学) 「若杉山:日本最古の水銀朱鉱山遺跡を地質学から読み解く(仮題)」



兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科 RRM
〒668-0814 豊岡市祥雲寺128(兵庫県立コウノトリの郷公園内)
兵庫県立大学豊岡ジョ・コウノトリキャンパス
Tel. 0796-34-6079 Fax. 0796-22-5200
E-Mail: u_hyogo_toyooka@ofc.u-hyogo.ac.jp
<http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>



【写真提供】
松原 典孝:キャンパス前の風景
内藤 和明:オモダカ
泉山 真寛:ピオトープ
田川 愛:吸虫Rに寄生されたシマヘビ
石橋 弘明:凝灰岩製石燈籠
下中 智晃:魚つかみ大会

地域資源マネジメント研究科 RRM2018年度修了生^{博士前期課程}の研究成果

地域資源マネジメント研究科は、2014年度の開設以降、これまでに合計29名の博士前期課程修了生を送り出しています。本号では、今年3月に巣立っていった修了生の研究成果の一端を紹介します。

RESEARCH PRESENTATION

泉山 真寛 Masahiro Izumiyama

所属・職業 / 大阪府青少年活動協会 (副会長・吹田市自然体験交流センター)

兵庫県豊岡市のビオトープにおける水生動物群集の特徴と生息場所要因



調査を行ったビオトープの全景

水田とは異なることが明らかとなりました。以上より、今後ビオトープを造成していく際には、上記で得られた環境要因を加味したハビタットの創出にもとづく種の多様性の保全が望まれます。

Research Presentation [エコ] ECO

石橋 弘明 Hiroaki Ishibashi

所属・職業 / 大谷大学真宗総合研究所

身近な歴史的石造物の石材産地を探る



鹿野神社の竹野町青井浜産の凝灰岩石燈籠 (豊岡市竹野町、安永9年(1780年)銘)

日本列島各地には江戸時代などにつくられた石造物が膨大な数存在しています。それらの歴史的石造物について、今まであまり注目されてこなかった石材という視点から迫る研究を行いました。今回は肉眼観察に加え、最近はじめられた手法である帯磁率測定を用いることで、それぞれの歴史的石造物の石材がどこで産出した岩石かを探りました。但馬地方北部(豊岡市・香美町・新温泉町、京丹後市久美浜町)の寺社40箇所、近世近代の作成年が確認できる歴史的石造物298例を調査し、9つの岩種を見だし、うち、凝灰岩2種類、砂岩2種類、蛇紋岩の5つについて、それぞれ産地を特定することができました(凝灰岩は竹野町青井浜と香美町余部御崎、砂岩は村岡町村岡と島根県六道町東来待、蛇紋岩は養父市関宮)。また、岩種ごとの空間分布・時間分布を追いかけることで、北前船の海運の状況と矛盾しない、近在の産地の石材から遠方の産地の石材へという近世から近代への変遷をとらえることもできました。歴史的石造物はどれも、当時の人々の並々ならぬ思いを背景に、多大なコストと技術を投入してつくられ、そして現在まで守られてきたものであり、それぞれが地域の宝、地域の遺産といえます。調べ方を工夫すれば今までわからなかった作成当時の情報を引き出せることが、今回確かめられたと考えています。

Research Presentation [ジオ] GEO

下中 智晃 Tomoaki Shimomaka

所属・職業 / 豊岡市役所

戦後の但東町の組織再編と住民が抱くアイデンティティとの関係



但東青少年健全育成子育て応援団主催の魚つかみ大会

研究対象地の但東町(兵庫県)は、昭和の大合併で成立した自治体ですが、過去に合併庁舎の位置や中学校統合問題などで町を二分する紛争がありました。原因としては、町当局が推進する方針と、地区住民の思いが一致しなかったことにあります。その背景には「根強い住民感情」が存在し、それを「ローカルアイデンティティ」という用語でとらえながら事例研究に取り組みました。研究を進めるなかで、個人や集団によって形成されたローカルアイデンティティは、約60年間の経過において一定程度変容したことが確認できました。住民のアイデンティティが変容する要因には、生活の基盤であった地場産業の盛衰が多大な影響を及ぼしており、先送りとなっていた中学校統合の実施に踏み切るきっかけは、大規模自然災害(阪神・淡路大震災)でした。そして、平成の大合併で豊岡市の一部となって以降も、少子化は深刻であり、地域の切実な問題となっています。これまでに以上に地元で子育てができにくくなったため、住民主体の子育て支援活動が小学校区(地区)よりも広いエリアで行われています。このように住民が主体的になって行う活動もまた、これまで頑なであった地区の壁を超えることのできるローカルアイデンティティの変容へとつながる可能性を秘めていると言えます。

Research Presentation [ソシオ] SOCIO

田川 愛 Megumi Tagawa

所属・職業 / 兵庫県立大学大学院環境人間学研究所 共生博物館 博士後期課程1年

へび類に寄生する外来種の可能性が高い寄生虫(吸虫R)



吸虫Rに過剰寄生されていたシマヘビ。黒い楕円形の1つ1つが1個体の吸虫R。

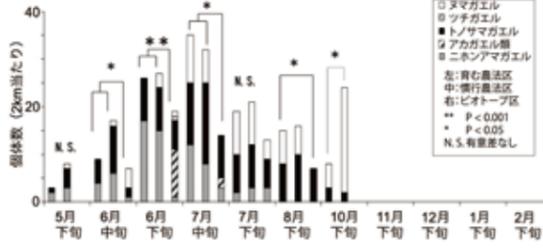
今後、私達自身がこのような生物の媒介者にならないよう外来種問題を捉えていくべきだと私は考えています。

Research Presentation [エコ] ECO

藪下 拓斗 Takuto Yabushita

所属・職業 / JA鳥取中央

異なる湿地環境におけるカエル類の出現状況



調査区毎のカエル類の個体数の変化。

兵庫県豊岡市では環境保全型の稲作である「コウノトリ育む農法」(育む農法)が行われています。本研究では、育む農法が優占する区と、従来の稲作が優占する区、および水田ビオトープ区で、カエル類の出現状況と食性を調査しました。3区にそれぞれ1kmのルートを設け、その両側の蛙(幅1.5m)を歩いてカエル類を捕獲し、実験室内で強制嘔吐法により胃内容物を取り出して同定しました。1年を通じて、ニホンアマガエル、アカガエル属、トノサマガエル、ツチガエル、およびヌマガエルの5種類が確認されました。その内、アカガエル属とツチガエルはビオトープ区でのみ、残りの3種は全ての地区で確認され、両水田区と水田ビオトープ区ではカエル類の出現状況が有意に異なり、ニホンアマガエルとヌマガエルには有意な違いがなく、ニホンアマガエルと他の2種類では有意に異なっていました。また、両水田とビオトープで生息しているカエル類全体の食性には有意な違いがありませんでした。本研究では、農法による顕著な違いはみられませんが、ビオトープと水田で出現状況が異なっていたことから、カエル類の多様性保全のためには様々なタイプの湿地環境の存在が重要だと考えられました。

Research Presentation [エコ] ECO